

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●天皇賞(秋)は3歳馬エフフォーリアが優勝

10月31日(日)に行われた天皇賞(秋)(GⅠ)では、横山武史騎手騎乗のエフフォーリア(牡3歳/美浦・鹿戸雄一厩舎)が優勝しました。3歳馬による秋の天皇賞制覇は史上4頭目、グレード制が導入された1984年以降では3頭目のこと。横山武史騎手の父・横山典弘騎手は2009年にカンパニーで、祖父・横山富雄元騎手は1969年にメジロタイヨウで天皇賞(秋)を勝利しており、親子三代による同レース制覇は史上初めてのこととなります。

●M.デムーロ騎手がJRA重賞通算100勝を達成

10月30日(土)の4回東京7日・第11レースとして行われたアルテミスS(GⅢ)ではサークルオブライフが1着となり、同馬に騎乗したミルコ・デムーロ騎手(栗東・フリー)は、史上10人目、現役では6人目となるJRA重賞通算100勝を達成しました。

●石川裕紀人騎手がJRA通算200勝を達成

10月30日(土)の4回東京7日・第2レースではオードゥメールが1着となり、同馬に騎乗した石川裕紀人騎手(美浦・相沢郁厩舎)は、現役59人目となるJRA通算200勝(3962戦目)を達成しました。

●服部利之調教師がJRA通算200勝を達成

10月31日(日)の4回阪神8日・第12レースではシゲルホサヤクが1着となり、同馬を管理する服部利之調教師(栗東)は、現役109人目となるJRA通算200勝(延べ4147頭目)を達成しました。

●秋の新潟リーディングジョッキーは菅原明良騎手

10月31日(日)をもって5回新潟競馬が終了し、10勝をあげた菅原明良騎手(美浦・高木登厩舎)が開催リーディングジョッキーとなりました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●JBCはミュウチャリー、レッドルゼル、テオレーマらが優勝

JBCクラシック(JpnⅠ、11月3日、金沢、2100^米)は、3番手から直線入口で先頭に立った6番人気の船橋所属馬ミュウチャリー(吉原寛人騎手=金沢、牡5歳、父パイロ)が、出遅れから追いつけた2番人気のオメガパフュームを半馬身抑え、地方馬としてはこのレース初優勝。3番人気のチュウワウウィザードが3着に入り、こちらも出遅れた1番人気のテオレーマは4着、ケイティブレイブは5着、逃げたダノンファラオは7着に敗れています。

JBCスプリント(JpnⅠ、11月3日、金沢、1400^米)は、6番手から差を詰めたレッドルゼル(川田将雅騎手、牡5歳、父ロードカナロア)が残り200^米を切った辺りで内から抜け出し、レコードタイムで1番人気に応えました。サンライズノヴァがゴール寸前で逃げ粘るモズスーパーフレアを交わして2着に上がり、3番人気のリュウノキナは5着、2番人気のサクセスエナジーは7着でした。

JBCレディスクラシック(JpnⅠ、11月3日、金沢、1500^米)は、中団から追いつけた1番人気のテオレーマ(川田将雅騎手、牝5歳、父ジャスタウェイ)が、先に抜け出したマドラステックをゴール前100^米で捉えてレコード勝ち。リネンファッションが3着、2番人気のレーヌブランシュは4着、クリスティは最下位の12着に沈んでいます。

JBC2歳優駿(JpnⅢ、11月3日、門別、1800^米)は、序盤最後方を進んだ3番人気のアイズジャイアント(三浦皇成騎手、牡、父ダンカーク)が、残り100^米で1番人気のナツジ(北海道)を差し切りました。オーディロンは4着、コマノカモンは9着、ワカミヤプレストは11着、サーティファイドは殿の14着と、他のJRA勢は不振でした。
※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1 ヴィクトリアダービー～モーリス産駒ヒトツが優勝

10月30日にオーストラリアのフレミントン競馬場で行われたG1 ヴィクトリアダービー(3歳、芝2500^米)はJ.アレン騎手を背に後方でレースを進めたモーリス産駒のヒトツ(牡3歳)が直線で力強く抜け出して1.75馬身差で快勝。重賞初制覇をダービーで飾りました。ヒトツは2歳時はW.ケリー調教師の下、全て重賞に出走して3戦未勝利。その後トレードされて、現在のC.マー&D.ユースタス厩舎に転厩となり、今年9月の未勝利戦(芝1350^米)で初勝利をあげると、続く前走10月9日のG1 コーフィールドギニー(芝1600^米)は5着でした。なお、ヒトツの父であるモーリスはオーストラリアのアローフィールドスタッドで2017年、2018年、2019年、2021年とシャトル供用されています。

●G1メルボルンC～ベリーエレガントがG1・10勝目

“国の活動を止めるレース”と言われるG1メルボルンC(3歳上、芝3200^米)が11月2日にオーストラリアのフレミントン競馬場で行われ、中国でレースを進めたベリーエレガント(牝6歳、父ゼド)が、G1コーフィールドCまでG1・3連勝中だったインセンティブアイズに4馬身差をつけて優勝しました。昨季の豪年度代表馬でもあるベリーエレガントはこれでG1・10勝目(ほかにコーフィールドC、オーストラリアンオークスなど)。J.マクドナルド騎手とC.ウォーラー調教師はこのレース初制覇となりました。